

令和2年度 消費・安全対策交付金事後評価結果

目的	目標	事業実施主体	事業内容	事業実施実績	交付金相当額(円)	目標値及び実績				都道府県等の事後評価		
						目標値	実績	達成度	評価	評価の概要及び対応方針等	第三者の意見	
I 農畜水産物の安全性の向上	農薬の適正使用等の総合的な推進	三重県	○農薬の安全使用の推進 ○農薬の適切な管理及び販売の推進	農薬使用者を対象とした研修会等の開催 実施回数：429回 参加人数：4,523人 ゴルフ場の農薬使用状況の調査及び記帳指導 実施件数：24件 農薬販売者の指導の実施 実施件数：102件 農薬管理指導士の育成研修等農薬の適正使用・管理に関する研修会 実施回数：6回 参加人数：315人	90,000	農薬の不適切な販売及び使用の発生割合の減少率	3.5%	12.6%	90.6%	A	農薬販売者の不適正な事例のうち届出の不備については、代表者の変更に伴う届出を行っていなかった等があり、変更届の提出を指導した。帳簿の不備については整備するよう指導を行った。農薬に該当しない除草剤の販売については棚の整備を促し、その場で改善した。農薬以外の物資との区分の不備については指導後、次年度以降改善の確認を行う。農薬使用者に対する立入調査に関しては、今後も違反無しが継続するよう、農薬管理指導士の研修等を通して農薬適正使用の知識の普及・啓発に努めていく。	農薬調査・パトロールが継続実施されており、本年度は農薬販売者の指導において、不適切な事例が102件中13件確認されたが、適切な改善指導が行われた。年6回開催された農薬管理指導士の研修に315名が参加し、新規の農薬管理指導士が36名認定され、農薬の安全使用を推進する担い手の育成にも努力している。
	安全性向上措置の検証・普及のうち農産物・加工食品の安全性向上措置の検証	三重県	○安全性向上対策の有効性・実行可能性の検証 <貝毒安全対策> ・従来検査(1類型) ・新技術による検査(1類型)	・貝毒に係る安全性向上対策の有効性・実行可能性の検証：2類型	247,000	<貝毒安全対策> ・従来検査(1類型)	1	1	100%	A	従来の下痢性貝毒検査で検出限界値未満の場合、新技術による検査(下痢性貝毒簡易測定キット)においても定量限界未満となることが確認された。しかし、新技術による検査の有効性・実行可能性を検証するにはデータが不足しているため、今後は、従来検査で検出限界値を超える毒量が確認されたサンプル、あるいは貝毒の標準物質をサンプルに用いた希釈系列を作成し、従来と新技術による検査法で測定結果を比較する必要がある。	下痢性貝毒検査において、公定法のLC-MS/MS法と簡易法との比較を行ったが、R2年度は下痢性貝毒が発生しなかったようで、自然相手のことなので難しいが、当初の計画通りには進捗しなかったようである。今後、従来法と簡易法との比較データを蓄積する必要があると思われる。
II 伝染性疾患・病害虫の発生予防・まん延防止	家畜衛生の推進	三重県	○監視体制の整備・強化 ・BSE検査・清浄化の推進 ・精度管理体制の確立 ○家畜の伝染性疾患のまん延防止 ・家畜の生産性を低下させる疾病の低減 ○畜産物の安全性向上 ・生産衛生管理体制の整備 ・動物用医薬品の適正使用・流通促進 ・医薬品の使用実態調査、指導 ○家畜衛生対策の推進に係る関連機器の整備	・年間ELISA検査実施頭数：20頭 ・検査機器校正：1式 ・調査実施農家数：24戸 ・農場HACCP認証支援農家：5戸 ・指導・監視実施件数：47件 ・使用実態調査農家戸数：102戸 ・検査機器：1式	6,748,726	家畜衛生に係る取組の充実度	102	100	98%	A	本事業は計画通り実施することができ、また、伝染性疾患の発生件数はH28～30年度の3年間の平均よりも抑制することができたものの、検査件数が平均を下回ったため、達成度については目標値を達成できなかった。検査件数が伸び悩んだ理由は、豚熱発生に伴う防疫作業、ワクチン接種作業による家保業務の増加、農場の衛生状況の向上による疾病発生数の減少及び新型コロナウイルスの影響による農家巡回の減少によるものと考えられる。しかしながら、家畜伝染病の発生予防・まん延防止のためには積極的な検査が必要であり、今後も検査件数を増やす努力を進めていく。	BSE検査・清浄化推進、慢性疾病等生産性を阻害する疾病の調査及び予防、農場HACCPの普及・啓発による生産衛生管理の検査・検証・改善指導、動物用医薬品の適正使用と流通の監視により、安全・安心な畜産物の安定供給につながる指導体制が構築されている。残念ながら1養豚農家で豚熱の発生が認められたが、農場バイオセキュリティの向上により、豚熱の他農場への拡大、県内のまん延を防ぐことができた。これらのことから、達成度は目標値に達しなかったものの、令和2年度の本事業の推進は適正であると評価できる。
		三重県畜産協会	○農場バイオセキュリティの向上	・バイオセキュリティ対策資材：1式	4,122,274							
	養殖衛生管理体制の整備	三重県	○総合推進会議の開催等 ○養殖衛生管理指導 ○養殖漁場調査・監視 ○疾病の発生予防・まん延防止	全国会議への参加 2回 地域検討会への参加 2回 養殖管理・医薬品使用巡回指導 15回 ワクチン使用巡回指導 2回 講習会の開催 1回 情報紙の発行 9回 魚病被害・水産用医薬品使用状況調査 1回 医薬品残留調査 20検体 漁網防汚剤残留検査 10検体 魚病診断件数 273件	216,000	養殖衛生管理指導を実施した経営体数の養殖等経営体総数に占める割合	100%	100%	100%	A	コロナ禍のため平成31年度より講習会の開催数は減少したが、代わりに養殖管理や水産用医薬品の適正使用に係る個別の巡回指導を実施した経営体数、情報誌の発行回数を増やすことでカバーし、養殖業者の養殖衛生に関する意識の向上に寄与した。今後も養殖業者や関係者の協力を得ながら、消費者が求める安全で安心な養殖魚の供給を継続していく必要がある。	魚病による被害は、養殖業の成長産業化を阻害する大きな要因である。魚病対策を難しくしている原因の一つは、魚病に関する知識が、現場で働く人々に浸透していないことである。そのため、ワクチンとは何か、などの基礎的教育から始めなければいけないのが現状であり、県が主催する講習会や巡回指導などは、非常に重要な役割がある。今回は、コロナ禍中とは言え、計画通りに、県内の魚類養殖業者に対して衛生管理指導を実施したことは、大変に評価できる。今後もwebを活用することも含めて、現場の教育を続けてもらいたい。
	病害虫の防除の推進	三重県	○先進技術を活用した総合的病害虫・雑草管理(IPM)技術体系の確立	実証試験の実施：1農場	13,000	IPM実践指標値の現状値からの向上率	102.4	102.4	100%	A	赤色防虫ネットを利用した葉ネギのネギアザミウマ防除技術は、露地及び施設栽培の実証試験において、寄生個体数の低減や被害抑制効果を確認できたことから、実用的な防除技術と判断できる。	ネギアザミウマは葉を食害するに留まらず、ネギえそ条斑病を媒介するネギの重要病害であるが、薬剤耐性が発達しやすい難防除害虫である。ネギのような露地野菜では、開放環境の栽培となるため、有効なIPM防除技術の開発が遅れている中、赤色防虫ネットが、露地栽培ネギでのネギアザミウマの防除に有効であることが明らかとなり、IPM防除への利用が期待される。
	重要病害虫の特別防除等	三重県	○重要病害虫侵入警戒調査等の実施	・調査総回数：188回	163,146	対象病害虫の調査・防除等の総回数	175回	188回	107%	A	計画に基づく調査を実施した。対象病害虫の発生は確認されなかった。	三重県において、侵入警戒対象の重要病害虫であるチュウカイミバエ、ミカンコミバエ種群、ウリミバエ、火傷病、コドリノガ、アフリカマイマイ、ウメ輪紋ウイルスの特別防除に関してその目的に沿って、効率的な侵入警戒調査が適切に実施されている。なおウメ輪紋ウイルスについては、発病株が今後も発生する可能性はあるので、生産地での調査は継続した方が良いと考えられる。
総計					11,600,146					総合達成率 98% 総合評価 A		

令和2年度 消費・安全対策交付金事後評価結果

目的	目標	事業実施主体	事業内容	事業実施実績	交付金相当額(円)	目標値及び実績			都道府県等の事後評価		
						目標値	実績	達成度	評価	評価の概要及び対応方針等	第三者の意見
Ⅱ 伝染性 疾病・病 害虫の発 生予防・ まん延防 止	家畜衛生の推進 (特別交付型)	三重県畜産 協会	○農場バイオセキュリティの向上	バイオセキュリティ対策資材1式8農場	8,332,000	豚熱、アフリカ豚熱、高病原性鳥インフルエンザ及び低病原性鳥インフルエンザの発生予防	豚熱のまん延防止。 アフリカ豚熱、高病原性鳥インフルエンザ及び低病原性鳥インフルエンザの発生予防	達成	適正	本事業は計画のとおり実施することができた。バイオセキュリティの向上により、アフリカ豚熱、高病原性鳥インフルエンザ及び低病原性鳥インフルエンザの発生を予防した。また、県内1農場で豚熱が発生したものの、事業の適切な実施により、他農場での豚熱発生を予防し、豚熱のまん延を防止することができたため、目標を達成することができた。引き続き豚熱をはじめとした家畜伝染病の発生・まん延防止を進めていく。	残念ながら1養豚農家で豚熱の発生が認められたが、農場バイオセキュリティの向上により、豚熱の他農場への拡大、県内のまん延を防ぐことができた。これらのことから、令和2年度の本事業の推進は適正であると評価できる。
	病害虫の防除の 推進	株式会社 稲生営農 サービス	○温暖化等の影響で発生密度が増加している 病害虫の管理手法の確立	実証試験の実施：1農場	2,700	スクミリンゴガイの発生抑制	前年と比較して、発生は抑制された	達成	適正	スクミリンゴガイの被害を軽減するため、冬季の耕うんが有効であることを確認できた。	イネの侵入害虫であるスクミリンゴガイは、地球温暖化の影響を受けて、日本国内での繁殖地域の拡大を加速させている。三重県のイネ栽培は早植なので、従来スクミリンゴガイの影響を受けにくかったが、移植時期の気温が上昇し、スクミリンゴガイの活動範囲温度となりつつあり、被害が増加している。有効な登録殺虫剤もあるが、持続的実現につながる農薬を使用しない防除技術の確立も重要である。冬季の耕起により、地中の越冬卵を物理的に死滅させる防除試験が実施されており、三重県の冬季環境でも、個体数が減少することが明らかとなった。今後はイネのIPM技術として活用して頂きたい。
総計					8,334,700				総合達成率 達成 総合評価 適正		